



# 人影

12月18日

Sudden Fiction Project

高階經啓  
hirotakashina

## 12月18日のおはなし「人影」

静まり返った深海で、人影を見る。さほど離れていない海底にたたずんでいる。その姿形をはっきり見ることはできない。どんな潜水スーツを着ているか、どんなボンベを背負っているか。そこまではわからない。ぼんやりとただ人影が見えるばかりである。ぼくは調査作業の手を止め、視界の隅の人影を確認するためゆっくり向きを変える。サーチライトが届いた頃には、しかし、もう人影は見えない。

気のせいや幻覚などではない。間違いなくそこに人がいた。いまのいままで。百歩譲って、人に見える何かの影だったとするならば、小さな魚の群がたまたま人の形を取ったのかもしれない。よかろう。その可能性は残しておこう。それならば、一瞬にして消えたことの説明にもなる。でもそうではない。確かに人を見た、とぼくは思っている。

潜水マスクのガラス面の反射、酸素ボンベのシルエット、ぼんやりとではあるが確かに光っていた作業灯。見間違えるはずがない。誰かがそこに、それもかなりすぐそばにいた。何をすることでなく背筋を伸ばしてそこに立っていた。言うまでもなく、それはもちろんぞっとするようなできごとだ。一人で潜っているはずの、それもおよそ人が訪れるような場所ではないポイントの、しかも深海で、自分以外の人影を見るなんて。

それは自分自身の影だ、という説を聞いたことがある。あるいは立ちこめるマリンスノーのものの中に、トンネル状に自分の形に穴があいて、それを人影と見間違えるのだという説も聞いたことがある。もっとオカルト寄りの説となると、ごまんと聞いたことあるがいまは思い出したくない。でもぼくは慎重にあたりを見回しながら、いろいろな説を思い出してしまっている。

極限状況下では、心の中に浮かんだものを視覚的に実際に見ているかのように感じるという説があって、それが一番説得力がある気がする。つまり本当は覚醒しているのに、脳がまるで夢を見ている状態に入ってしまう、夢の中のありもしない像を現実の視界に重ねるのだという。でも実感としてはとてもじゃないが承服できない。あれが幻覚だって？ だとしたらなんでまた潜水スーツなんか着ているんだ？

「どうした？」

耳元で囁くような声がしてほとんど倒れそうなショックを受ける。けれども驚くには当たらない。実際には海上船通信本部のハザマから連絡だ。とっさに口をきくことができず黙っていると再び声がした。

「大丈夫か？ 何があった？」

作業の手を止めたのと、恐らくモニターされている心拍数が急激に上がったために、異常を察知したのだろう。その時なぜぼくがありのままに話さなかったのか、それはよくわからない。人には話さない方がいいような気がしたのだ。事故以来ずっと潜っておらず、しかも復帰して間もない潜水だったから、能力を疑われたくなかっただけだと思う。

探していた鉦脈は見つからず、10分ほどで船に戻る。もうそれ以上その場に留まりたくなかったからでもある。光り輝く海面が見えてきたときは心からほっとした。

ところが海上も大騒ぎになっていた。ぼくが潜った後、突然天候が荒れ始め、海は大時化となり、死傷者まで出たという。重傷者も数人出て、その手当てで殺気立っていたというわけだ。いまは悪天候の気配もない。わずか30分ほど時化するだけ時化で、一瞬にして凪いだような海に戻ったらしい。海底は全く静まり返っていて、そんなこと気づきもしなかった。

「誰が死んだんだ？」

「ハザマ君よ」司令室のミズノが言う。「あなたが潜ってすぐだった」

「そんな……」

「ひどかった、本当に。でも」ミズノが続ける。「嵐は去ったわ」

(「嵐」 ordered by y u k i -san/text by TAKASHINA, Tsunehiro a.k.a.hiro)

## 感謝の言葉と、お願い&お誘い

---

Sudden Fiction Project（以下SFP）作品を読んでいただきありがとうございます。お楽しみいただけましたでしょうか？ もしも気に入っていただけたらぜひ「コメントする」のボタンをクリックして、コメントをお寄せください。ブログへの登録（無料）が必要になりますが、この機会にぜひ。

「気に入ったけどコメントを書くのは面倒だ」と言うそのあなた。それでは、ぜひ「ツイートする（Twitter）」「いいね！（Facebook）」あたりをご利用ください。あるいは、mixi、はてな等の外部連携で「気に入ったよ！」とアピールしていただくと大変ありがたいです。盛り上がります。

※星5つで、お気に入り度を示すこともできますようですが、面と向かって星をつけるのはひょっとしたら難しいかも知れませんね。すごく気に入ったら星5つつける、くらいの感じでご利用いただければ幸いです。

現在、連日作品を発表中です。2011年7月1日から2012年6月30日までの366日（2012年はうるう年）に対して、毎日「1日1篇のSFP作品がある」という状態をめざし、全作品を無料で大公開しています。→[公開中の作品一覧](#)

SFP作品は、元作品のクレジットをきちんと表記していただければ、転載や朗読などの上演、劇団の稽古場でのテキスト、舞台化や映像化などにも自由にご活用いただけます。詳しくは「[Sudden Fiction Project Guide](#)」というガイドブックにまとめておきました。使用時には、コメント欄で結構ですので一声おかけくださいね。

ちょっと楽屋話をすると、7月1日にこのプロジェクトを開始して以来、日を追うごとにつくづく思い知らされているのですが、これ、かなり大変なんです（笑）。毎日1篇、作品に手を入れてアップして、告知して、[Facebookページ](#)などに整理して……って、始める前に予想していたよりも遥かに手間がかかるんですね。みなさんからのコメント、ツイート（RT）、「いいね！」を励みにがんばっていますので、ぜひご協力お願いいたします。

読んでくださる方が増えるというのもとても嬉しい元気の素なので、気に入った作品を人に紹介して広めていただけるのも大歓迎です。上記Facebookページも、徐々に充実させてまいりますので、興味のある方はリンク先を訪れて、ページそのものに対して「いいね！」ボタンを押してご参加ください。

10月からは「1日1篇新作発表」の荒行（笑）を開始し、55作品ばかり書き上げる予定です。「[急募！お題 この秋Sudden Fiction Project開催します](#)」のコメント欄を使って、読者のみなさんからのお題を募集中です。自分の出したお題でおはなしがひとつ生まれるのって、ぼくも体験済みですが、かなり楽しいですよ！ はじめての方も、どうぞ気軽に遠慮なくご注文ください（お題は頂戴しても、お代は頂戴しないシステムでやっています。ご安心を）。

こんな調子で、2012年6月30日まで怒濤で突き進みます。他にはあんまりない、オンラインならではの風変わりな私設イベントです。ぜひ一緒に盛り上がってまいりましょう。

## 人影

<http://p.booklog.jp/book/40924>

著者 : hirotakashina

著者プロフィール : <http://p.booklog.jp/users/hirotakashina/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/40924>

ブックログのpapier本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/40924>

公開中のSudden Fiction Project作品一覧

<http://p.booklog.jp/users/hirotakashina>

電子書籍プラットフォーム : ブックログのpapier ( <http://p.booklog.jp/> )

運営会社 : 株式会社paperboy&co.